

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録(2017.9) 平成28年度:88.

脳卒中患者に対する離床プログラム導入の効果 The effect of the
ambulation program for patients suffering from cerebral apoplexy

大宮 剛, 角井 俊幸, 和田 始

脳卒中患者に対する離床プログラム導入の効果

The effect of the ambulation program for patients suffering from cerebral apoplexy

○大宮剛、角井俊幸、和田始

キーワード：脳卒中急性期 離床 麻痺

【はじめに】脳卒中の急性期では早期から積極的なリハビリテーションを行うことが勧められている。旭川医科大学病院院10階東ナーステーションは脳神経外科一般病棟で、早期リハビリテーション開始を具現化するために2011年度から離床プログラムを導入した。本研究では端座位を離床と定義した。

【目的】離床プログラムが早期離床の役割を果たしているかを検証する。

【倫理的配慮】本研究は本学倫理委員会の承認を得て実施した。

【方法】プログラム導入前の2010年度、導入後2011年から2015年度までの6年間に脳梗塞・脳出血で入院となり、JCS 1桁、運動が禁忌となる合併症が無い患者を対象とした。運動麻痺あり群となし群の2群に分け、各年度の入院から離床までの期間を一元配置分散分析し、HDS法により多重比較した。また同病棟に所属する看護師24名を対象に、離床プログラムが適切に活

用されているかを質問紙で調査した。

【結果】麻痺あり群の2010年度の入院から離床するまでの平均日数は6.59日で、2015年度は2.95日であった。麻痺あり群の離床日数は $F(5, 171)=4.57, p=0.001$ となり、年度に主効果を認めた。2010年の結果は2013年・2014年・2015年の結果に対し有意に不良であることが認められた($p < 0.001$)。麻痺なし群では $F(5, 159)=2.40, p < 0.05$ となり、年度に主効果を認めたが、年度ごとに差を認めなかった。看護師への質問紙調査では、離床プログラムを「活用していない」の回答が半数以上を占めたが、看護師全員が離床を意識し、早期離床が行えていると回答した。

【考察】離床プログラムは現在適切・確実に使用されていないが、看護師の離床に対する意識を持たせ、脳卒中患者の入院から離床するまでの日数を短縮させていることが示唆された。